

平成25年度政務調査事業報告書(2)

日時 平成25年10月17日
主催 (一財)都市農山漁村交流活性化機構
場所 北海道栗山町「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」

「2013全国廃校活用セミナー(北海道地区)in 栗山」

調査目的

平成26年度末に町立湯ノ岱小学校、早川小学校、小砂子小学校の3校が児童数の減少により統廃合されることになっているため、廃校後の利活用をどの様に図っていくべきかについて、全国の廃校活用の実践報告から学び、わが町として廃校活用をどのように具現化していくべきかについて調査する。

栗山町「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」



栗山町「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」は、栗山町と公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団が協力し、栗山町の廃校を環境教育など行う宿泊体験施設として再生させた施設である。

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)

文部科学省の調べで、平成4年から平成23年度までの20年間で、約6,800校余りの公立学校が廃校となり、近年、年間約500校近くが廃校となっている。廃校の活用の状況では、建物が現存し何らかの活用が図られているケースは約7割で、残り3割が未利用となっており、その活用を促すことが課題となっている。

特に、少子・高齢化が進む農山漁村地域においては、地域コミュニティのシンボリック的存在である小中学校の廃校は、さらなる過疎化を加速させ、地域コミュニティの低下を招くのではないかと危惧されている。

廃校となった小中学校を再生可能な貴重な地域財産として捉え、様々な形で有効活用を図り、地域の活性化に結びつけることが望まれている。

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)は、廃校活用の普及推進を図ることを目的に、「廃校活用ポータルサイト」をホームページ内に開設し、各種情報の提供を行っている。

栗山町の取り組みの実践報告

ハサンベツ里山計画・栗山オオムラサキの会・NPO くりやま 事務局長

NPO 雨煙別小学校理事 高橋 慎 氏



～「ふるさとは栗山です」の合い言葉出進めるふるさと教育とまちづくり～

ハサンベツ里山20年計画「自然と人が共生する」栗山の街づくり

オオムラサキの森づくりからハサンベツ里山、そして、夕張川流域のふるさとの川づくり、栗山ふるさと教育体験学習の拠点施設としての雨煙別小学校の再生へ取り組む。

サハンベツ里山20年計画～実行委員会発足とその目的

身近な自然を残す意義～

「開発か保護か、観光か教育か」の論議をこえて、環境省いきものふれあいの里の指定と町民による里山づくりへの参画で、2001年7月に実行委員会が発足される。

未来の子どもたちの遊び場、体験学習の場づくり～

地元の子どもたちを出発点として、自然関係団体、社会教育団体がいきものの里づくり協議会として大同団結し～植物観察会・おつ鳥クラブ・オオムラサキの会・ホテルの会・御大師山を愛する会・栗山青年会議所・ウオーターリフォーム会・きのこ親しむ会などがそれぞれ活動を展開する。

がそれぞれ活動を展開する。

市街地と農林業地・都市と農村の接点づくりとして、人と人の交流、技術伝承の場づくり(世代間・大人と子ども・地域の先達と次世代を担う若者・都市部の人たちと農村に暮らす者・障害者と健常者・異業種間など)を進める。

自然と人の共生ー環境型社会づくり

1985年夏にオオムラサキの発見から始まった「自然と共生するまちづくり」理科地域教材「栗山の自然をさぐる」づくりのフィールドワークが発見の契機となり、官民一体となった生息地を守り育てる活動を展開。

エゾエノキの里親制度による植樹活動ー雑木林の復元

ふれあいトーク67回の蓄積~心に木を植える運動(自然・歴史・生活・文化)、自然と人が仲良く生きる方法を学習する~地域の先達者を講師として実施する。

湿性・水生植物による水質浄化作用基礎実験の取り組み、農業排水の改善の取り組み~下流に住む人達に水資源を提供する上流で暮らす者の責任、ゴミ問題を含めた循環型社会システムづくりへの提案。

2002年深教育課程実施~総合学習の導入を受けて、「何のために勉強するのか」~学びと暮らしの遊離を再構築していく場づくりとして、小学校の体験学習、近隣小中学校などからの体験学習の受け入れを行う。

街の宝物探し~街の現状をきちんと把握し、町民に知らせる。「いきものの里の仲間たち」の発行、オオムラサキ通信などの発行、絵本・絵はがき、ふるさとカレンダー、合唱曲など町民各層の創作活動に発展するなかで、**旧雨煙別小学校の改修~自然・農林業・教育文化の宿泊体験学習の拠点施設にする。**



「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」は、公益財団コカ・コーラ教育・環境財団と栗山町が廃校となった旧雨煙別小学校を、環境教育を行う宿泊可能な体験施設として再生し、次世代を担う青少年の育成と地域社会の成長に貢献するフィールドとするもので、感動が生まれる自然体験、地域社会・環境の強みを活かし、環境教育プログラムの展開を通じて、全国の青少年の人間的な成長を目指し、地域社会の活性化と成長に貢献する。



栗山町の自然環境や農業環境を活かした体験型の環境教育プログラムを展開し青少年育成を促進する場である。

里山づくりの計画と実施方法とその成果

道州制モデル事業の実施として、三面コンクリート張り護岸の川を水生生物がすめる川へと改修する。環境省のモニタリングサイト1000「日本の里山」環境調査地に決定。農水省「立ち上がる農山漁村」の指定(農村景観・自然環境保全再生パイロット事業推進)を受ける。

地域づくり、教育づくりに向けた具体的な活動~童謡の見える里山づくり

「春の小かわはサラサラ」プロジェクト~2キロの小川の造成し、川や池の動植物の生態観察。ドジョウやドゲウオ・シズエビなど普通の水生生物の生息地づくりで、川づくり体験学習~川のなりたちの学習~森と土と川と海と大気をめぐる水の循環と人の暮らしの関係について学習する。

「ホーホーホタルこい」プロジェクト~ヘイケボタルの繁殖地完成で、ホタル鑑賞会。宿泊学習~キャンプ、ナイトハイキング、夜に咲く花・葉を閉じる野草観察会。

「夕焼け小焼けの赤とんぼ」プロジェクト~小川・池・田んぼの造成で、トンボなど水生昆虫の観察会の実施。

「菜の花畑に入日うすれ」プロジェクト~田畑造成と農村景観づくりで、農業体験、食教育~稲作、そば、なたね、大豆(とうふ)、小麦(パン)、堆肥づくり、土づくり。

なたね油の活用~食用、燃料。景観に配慮した果樹栽培(花モモ、スモモ、ハスカップ)

「森の木陰でドンシャラホイ」プロジェクト~炭焼窯の設置、50ヘクタールの雑木林を町民の有志から寄贈を受け、更に約17ヘクタールを町民3人から寄贈され、~恵みの森と命名し将来に引き継いでいく。

森の小径の自然観察会、植樹活動、冒険の森~ツリーハウスづくり、里に生きる昆虫観察、栗拾い、木の実、きのこ採りなどを実施。雑木林づくりとして間伐、下枝払いの実施。

「歴史の足跡をたどる」プロジェクト~旧道の復元

縄文遺跡を発掘する～縄文の人々の暮らしを再現する。アイヌ道、旧道をたどる歴史の道づくりや、利水、治水・水害の歴史―栗山地域最初の農業ため池、山津波をたどる。

夕張側流域をめぐる活動の活性化

いきものの里づくり協議会・懇話会・夕張川なんでも探検隊・青年会議所が、夕張川、長都沼をめぐらしている渡り鳥の調査～天然記念物の鳥オオヒシクイ。夕張川河畔林の調査、魚類調査で流域の小中学校が参加。

夕張川の恵みとともに暮らしてきた人々の歴史資料の発掘と整理。流域に残されているアイヌ語地名と遺物の調査とまとめで、夕張市、由仁町、栗山町、長沼町、南幌町、岩見沢市、江別市、札幌市など参加会員が広がった。(06年5月から10月に行われた流域の小中学生体験学習では38団体1475名、毎年参加団体が増加し、12年度は、107団体3954名となった。)

夕張川を活用した子どもたち対象の川体験事業の実施

川下り、川探検など「夕張川下りの実施」由仁町、栗山町を衷心に周辺市町村から参加。江別河川事務所なども参加。10年度以降は体験プログラム化し、参加者が大幅に増え、全道・全国からの参加者を対象とした体験学習を実施している。夕張川フォーラムの開催し、具体的な夕張川の再生に向けて「夕張川再生計画」の実施。などの取り組みについて報告された。

また、上ノ国町と隣接する渡島管内松前町「松前町交流の里づくり館」(児童の減少により統合された旧原口小学校)の活動報告もなされた。別紙資料で報告とする。

調査成果

「廃校活用セミナー」に出席し、全国で廃校となった小中学校を再生可能な貴重な地域財産として捉え、様々な形で有効活用を図るため、地域住民・各種団体など官民一体となり、地域活性化と体験交流学習の拠点と廃校活用を位置付けし、取り組んでいる具体例を学ぶことができた。

わが町においては、廃校となる学校がある地域住民だけでなく、町民全体が自分たちの財産であるという意識が希薄である。

廃校活用で、地域の街の活性化を図っている全国の実践事例に学びながら、わが町の山・川・海など恵まれた自然環境や、北海道内でも貴重な歴史的遺跡・遺産が数多くある、わが町の宝を活かして活用すべく、あらゆる手段を講じて情報を積極的に住民に提供し、住民を巻き込んだ町民一体となった取り組みを早急に推し進めるべきであります。